

1 研究主題

生きる力を育む総合的な学習の時間の在り方を求めて

2 主題設定の理由と方向性

昨年度は、平成14年度の総合的な学習の時間の新設に向けて、研究2年目として年間60時間余りの実践を行ってきた。「生きる力」を、「自ら課題を解決する力（自ら課題を見付け、解決の方法と見通しをもって課題を解決する力）」・「豊かな人間性（他者と協同しながら、認め励まし合って暮らしを高めていこうとする力）」と捉え、その中でも市橋の子ども達の弱点「課題を見付ける力」「伝え合う力」に重点を置き、その力が子どもの内発的なものに裏付けされる方途を模索してきた1年間であった。

今年度も昨年度同様、他領域特に教科との関連を考え、活動を通してどんな生きる力を付けさせるのか明確にした実践をしていきたい。また、地域の重要性・開かれた学校という観点からも、引き続き地域学習を柱としていくことを確認し合った。その学習のなかで自ら見付けた課題を解決するための追究の過程を鍛え育てていくこと、そしてその追究の場での伝え合う力を高めていくことが、21世紀を逞しく生きぬいてほしい子どもたちの「生きる力」となるものと考えます。

更に教師の願い・子どもの願いを生かすような各クラス裁量の時間をとり入れ、一層の楽しさとゆとりある総合的な学習の時間の在り方をさぐり、平成14年度に明るく円滑なスタートを切りたいと思う。

3 研究計画

(1) 核となる学習活動

[教師の願い]

- ・体験的、生産的な学習を大切にしたい。
- ・市橋の地域的特色を生かしたい。
- ・課題発見、解決の力を付けさせたい。
- ・伝え合う力を付けさせたい。
- ・ゆとりの中で実践をおこないたい。
- ・楽しい学習を実現したい。
- ・児童と共に学びたい

[地域の特徴]

- ・地理的な特色（加納輪中、長良川等）
- ・歴史的な特色（立政寺、和傘、蓮根田等）
- ・社会的な特色（県庁・環状線沿線の商店街・宇部日東工場・21号線周辺の交通網）
- ・人材的な特色（お茶・お花・水墨画・IARビ`クス等の先生、その他のGT）
- ・文化施設の活用（図書館・美術館・ふれあい会館等）

[児童の願いを生かすために]

- ・単元を開発していく中で、児童の思いや願いをどのように生かすか。
- ・児童の関心、意欲、主体的な姿勢を大切にするために、どのような指導・援助を行うのか。

市橋小の総合的な学習の柱
地域学習 (50,55時間)
 地域(市橋)に親しむ
 地域(市橋)に学ぶ
 地域(市橋)を誇る
 学習時間の名称 (わくわくタイム)

スキルアップの時間 (各10)	学年テ - マ	みんなの時間 35時間
情報学習	3 年 生	
英語活動	4 年 生	
	5 年 生	
	6 年 生	

(2) 研究内容の重点

自ら学び自ら考え問題を解決する力等の「生きる力」の育成や、学び方やものの考え方の習得等のねらいのもと、その理念や教育観の一層の共通理解を図る。今年度は、「課題を解決する力」「伝え合う力」に重点をおく。

各学年ごとのテ - マを具現していくための単元指導計画を累積する。

みんなの時間（35時間）の実践を交流し合い、来年度に参考となる資料を残す。

4 活動時間の位置づけ

(1) 3年以上... 教科の時間やF等の時間を活用し、年間105時間から110時間の学習を行う。

上記の学習時間は、学年、クラスで工夫し柔軟に活用する。

(2) 1・2年... 総合的な学習につなげるという立場から、生活科の見直しを図る。

5 研究組織

(1) 研究推進委員として、各学年から1名の代表を選出する。

(2) 研究推進委員会は、学校長・教頭・教務・研究推進委員で組織し、研究の推進にあたる。

(3) 研究母体は学年とする。異学年間の交流活動の研究も可とする。

6 研究会

(1) 全校研究会 年5回の全校研究会（全体交流会2回・全研3回）をもち、下記の研究計画のように行う。

(2) 学年研究会 学年での研究活動は、学年会で適宜行う。

各学年で、活動を公開し、隣接学年と共に研究会をもつ。（講師を依頼し、研究を深める。）

(3) 研究推進委員会 月1回の会をもち、研究構想の立案、全校研究会の企画運営、主題研究の総括等の活動を行う。

7 研究計画

全校研究会の予定	主な研究計画	研究成果の見通し
4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・研究構想 ・具体的な単元学習計画 <ul style="list-style-type: none"> — 単元の見直し — 単元の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態をつかみ、研究構想を立てる ・各学年で単元の見直しや調査を開始する ・各学級独自の単元の調査、開発を開始する
9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> — 単元の開発 ・研究実践の見直し ・研究のまとめ方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果や課題を明らかにしながら、進めていく
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の作成 ・成果と課題の交流 ・平成14年度の方向 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に生かせる資料を残す

